

「あなたの個性は何ですか？」と聞かれたら、なんと答えますか？私なら自分の長所を答えると思います。ですが、そんな自分の良いところだけが、個性なのでしょう。最近、「個性を大切に」という言葉をよく耳にします。私はこの言葉を聞くたびに、「個性」って何だろう？「個性を大切に」とは、何をどうすることなのだろう？と疑問に思うのです。

「個性的なファッション」という言葉を使うとき、多くの人が他人とは違う、その人だけの特徴的な服装をイメージすると思います。しかし、周囲を見渡せば、「人と同じじゃ嫌なので……。」と言いながら、同じようなファッションに身を包んでいる人を大勢見かけます。その時その時の流行に飛びつき、それが毎年繰り返される…。「個性」とはそんなに表面的で画一的なものなのでしょうか。

私は、改めて辞書を引いてみました。「他の人と違った、その人特有の性質」とありました。自分の個性は、他の人と比べないと、わからないものなのでしょうか。辞書で調べれば、スッキリ解決すると思っていた私の疑問は、そこでまた、大きくなってしまいました。

私は小学生の頃、手を挙げて発表することがとても苦手でした。自分の意見をどう思われるか人目を気にして、臆病になっていました。私は自分が嫌でした。中学生になった私は、そんな自分を変えたくて、授業中、手を挙げて発表したり、学級委員として人前に立ったり、生徒会に立候補したりしました。そうして、今の私になりました。

これまでお話ししてきたように、「個性」というものについて色々考えてきましたが、その結果、私は、自分なりの答えを見つけ出しました。それは、一言でいえば、「個性」とは、人と比べるものではなく、自分の良いところだけでもない、自分を創りあげている、あらゆる部分だということです。自分が嫌だと思っていた、小学生の私の内気な性格も、やはり、自分自身だったのです。そして変わりたいと思った自分も、積極的になれた自分も、紛れもない私自身なのです。

「個性的なファッション」とは、人と比べたり流行に流されたりすることではなく、本当に自分が好きな、自分に合ったものを身につけることを指すのだと思います。自分が自信をもって、気に入って身につけるものが、その人の「個性的なファッション」となるのではないのでしょうか。「個性」に良いも悪いもありません。好きも嫌いもないのです。いいえ、良いも悪いも、好きも嫌いも、全て自分の個性なのです。

つまり、個性とは、自分自身そのものなのです。その上で、「個性を大切に」とは、何をどうすることなのか、改めて考えてみました。結論からいうと、自分の全てを受け入れる、ということなのです。人を羨んだり、自分を嘆いたりするのではなく、自分を認め、自分を励まし、更に、今自分が気づかない、輝く自分の個性を見つけていけることが、本当の意味の、「個性を大切に」ということなのだと思います。そんな自分の個性を大切にできたとしたら、その先にあるものは自分の可能性です。新しい自分を発見するには、今の自分、今までの自分を理解することが必要です。小学生の内気な自分、積極性が現れてきた自分、そのどちらも大切な自分として受け入れ、さらに、新たな自分を発見していきたいと思います。

今、私は中学3年生です。初めて人生の大きな分かれ道に立っています。この先、人生には様々なできごとが待っています。まだ自分でも気づかない自分の個性が、自分の中に眠っているはず。私は、そんな新たな自分との出会いを楽しみに、希望を胸に前向きに生活していこうと思います。

みなさんも、ちょっと立ち止まって、鏡の中の自分をのぞき、自分自身を見つめ直してみたいと思いますか。

今年の6月、私たちが住む深谷市をゲリラ豪雨と大粒の雹が襲い、建物や車、農作物などに大きな被害が出ました。このような異常気象による被害が世界各地で起こっています。ヨーロッパは気温が40度を超えるような記録的な熱波に襲われ、パキスタンでは大雨による洪水で国土の3分の1が水没し、1200人以上の国民が亡くなったといえます。

異常気象の原因は、地球の温暖化だと言われています。私たち人間は便利さを求めてあらゆる進化を遂げてきました。しかし、生活が豊かになった一方で、その進化はたくさんの犠牲も生み、自らを脅かすような大きな問題を抱えることになっています。

私は皆さんに聞きたいのです。今の生活は便利ですが、この生活はこれからも続いていくのでしょうか。私たちは今、未来を守るための決断を迫られているのではないのでしょうか。

毎年夏になると、「昔はここまで暑くはなかった」という言葉を耳にします。両親が子どもだった頃は、今ほどエアコンを使わずに過ごすことができていたそうです。昔の夏は、打ち水をして涼しい風が室内を通るようにしたり、風鈴や簾で涼しさを感じさせたりする昔からの工夫を行っていたといえます。その時代、交通やサービスは今ほど発達していなかったかもしれませんが、特別に困ることもなかったのではないのでしょうか。しかし便利さを求めすぎた結果、環境を破壊し、温暖化を進めることになってしまったのだと思います。私たちの移動や生活の中で排出される二酸化炭素を減らすことができれば、環境を改善することができるのではないのでしょうか。

現に、コロナウイルス感染が爆発的に拡大して多くの店が休業し、不要不急の外出を避けることになったとき、二酸化炭素の排出量が減り、空気や水がきれいになったそうです。ロックダウンの際には世界中で二酸化炭素の濃度が一気に下がったといえます。

私はこのままいけば温暖化が少しずつ改善されていくと感じましたが、次にこのようなニュースも目にしました。「このコロナ禍で客が来ず、閉店していく店が後を絶たない」というものです。便利なもの、車などを使わなければ温暖化は少しずつ改善されていくでしょう。しかし、それでは経済が回りません。我慢を強いられる対策は進まないし、経済活動や利便性を求めたエネルギー消費を止めることは難しいと思います。

では、どうすればよいのでしょうか。私は、今まで当たり前にあった便利さを見直すということが必要だと考えます。何かを我慢して不便な生活に戻るのではなく、新しいクリーンエネルギーの利用開発を進め、別のより良い方法を探すのです。

そのためにはまず、現状を多くの人に知ってもらうことが重要だと考えます。子どものうちから学校や家庭で学び、話題にできれば、もっと身近な問題として捉えられるでしょう。さらに、一般の人でも自分の考えを主張できる機会を増やすことで多くの人の考えや行動が変わっていくのではないのでしょうか。自分の考えを公にする方法は自治体への投書やインターネット上での投稿など多岐にわたります。その中でもSNSは多くの若者が利用し、情報や流行を発信しています。私たち中学生も、SNSなどを活用して身近な対策を広めていくべきだと思います。

地球温暖化は対策をしてもすぐには止まりません。しかし、やらなければ進む一方です。今、行動を起こさなければ手遅れになってしまうでしょう。私たちに求められている決断とは、発想を転換し、新しい価値観や生活様式を生み出す決断だと思います。一人一人の小さな行動でも、多くの人が継続的に行うことで大きな成果を得ることができるはずです。

これからの時代を担う私たちから、意識を変えていきましょう。地球はもちろん、自分の未来を守るためなのだから。

## 《優秀賞》

### たった一つの私の苗字

南中学校 3年4組 まるおか なな  
圓岡 七菜

「まるおかです。」

今まで何度訂正してきたことだろう。そのたびに思った。他の苗字になりたい。

学校で、毎日のように行われる出席確認。一人一人が名前を呼ばれて、返事をする。先生は全員の名前を知っている。当然、間違われることはない。しかし、一日だけの体験会やボランティア活動ではこうはいかない。同じように名前を呼ばれ、出席確認をする。私の名前が呼ばれる。

「つぶらおかさん。」

……たぶん私のことだ。すかさず訂正する。

「まるおかです。」

今まで生きてきた15年間で、何十回、何百回、間違われてきただろうか。先ほど挙げた実体験もそのうちの一つだ。いくつになっても、間違われる苗字。今まで一番間違われてきた呼び方が「つぶらおか」である。なぜそんなに間違われてしまうのか、気になった私は、自分の苗字「圓岡」について調べてみることにした。

まず、図書館へ向かった。苗字の本はたくさんあったが、残念ながらどこにも「圓岡」について書かれた本はなかった。

次に、インターネットで調べてみると分かったことがあった。江戸時代に埼玉県本庄市に「つぶらおか」という集落があった。この「つぶらおか」という地名が発祥となって埼玉県に私と同じ漢字を使った「つぶらおか」という人が多く存在していることが分かった。

私は少しずつ自分の苗字を調べることが楽しくなってきた。さらに詳しい話を親戚の人から聞いた。私の苗字の「圓」という漢字は、昔「くにがまえにカタカナのムと貝殻の貝を合わせた漢字」で「まる」と読んでいたそうだ。しかし、苗字を届け出た役所に「このムと貝を合わせた漢字」の「まる」がなかったため、もともと「つぶら」と読んでいた今の苗字の漢字の「圓」を「まる」とも読めるようにしたそうだ。そのため、私の苗字を「つぶらおか」と読む人が多いのだろう。

日本には十万種類以上の苗字が存在する。世界でもこれほど多い国は珍しいとされている。苗字には、同じ漢字を使っても読み方を変えることで、家ごとに個性を持たせる傾向があったようだ。結果、日本で上位を占める「佐藤」や「鈴木」といったみなさんがよく知る苗字であっても全体の割合から見ると人口の2パーセントにも満たないのである。それ以外の苗字が相当数増えたことを物語っている。

今、社会は個性を尊重する時代になった。苗字と同じようにそれぞれが持っている名前も大切な個性の一つだと私は考える。例えば、人が生まれて初めて両親からもらうのが、思いや願いの込められた名前だ。親は誰でも子供が生まれたときに子供の幸せや健康を願い、その思いを名前に込める。「名は体を表す」という言葉もある通り、その名前と共に人生を歩む中で、名前はその人の顔になる。

自分の名前を大切にすれば、自分を大切にすることになり、相手の名前を大切にすれば相手を大切にすることにつながる。だからこそ、私は苗字や名前を大切にしていきたい。

今まで苗字を間違われるたびに、嫌な思いをしてきた。しかし、それが原動力になり、自分の苗字のルーツを調べることができた。

そして、私は嫌な思いや出来事であっても、向き合い、見方を変えていくことで新たな自分を発見できることを知った。これからも、自分に与えられた名前を大切に、そして嫌なことにも向き合っていきたい。

「私の名前は圓岡です。私は自分の名前に誇りを持っています。」

みなさんには夢がありますか。皆さんも夢について考えてみてください。

私はこの15年間、多くの夢や目標を掲げ、突き進んできました。私が「夢を持つことの大切さ」を知ったのは、3歳から始めた新体操がきっかけです。最初は、母に誘われて、なんとなく楽しいから始めました。しかし、初めての大会で悔しい結果となり、私はとても落ち込みました。母は落ち込んだ私を見て、大会用のキラキラひかるレオタードを作って応援してくれました。私は飛び跳ねるほど嬉しく、そんな母を「全国大会に連れて行きたい」という夢が出来ました。それからの練習は辛いこともありました。夢を実現するためにたくさん練習を重ねました。その成果もあり、小学6年生のとき県大会で7位になり、全国大会の切符を勝ち取りました。母を全国大会に連れて行く夢が叶った瞬間でした。全国大会当日、今でも私の記憶に残るエピソードがあります。自分の出番を待つ間、私が緊張でビクビクしていると、母が背中をバシッと叩いてくれました。私は母から力をもらった気がしました。そのおかげもあり、演技本番ではミスなく自分らしい演技をすることが出来ました。この新体操の経験から、私は夢や目標を持つことの大切さを知りました。

中学生になり、私は様々なことに挑戦しました。まずは部活動です。部活動は陸上部に入部しました。私の部活動での目標は県大会に行くことでした。特に駅伝は、練習がとても辛かったのですが、ゴールまで走り切る爽快感や、仲間と頑張る楽しさを知りました。中学2年生の時に駅伝の地区大会で優勝し、県大会の夢が叶いました。新体操などの個人競技では味わえない仲間と勝利を分かち合う喜びを感じることが出来ました。県大会では、それぞれがベストを尽くし、10位入賞という誇れる結果を残すことが出来ました。これも夢に向かって突き進んだからこそその結果だと思います。

新体操も変わらず続け、部活動と両立するために自主練に励み、自分が納得できる演技ができるように日々練習を重ねました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、新体操の大会がなくなり、練習の成果を発揮する場が減ってしまいました。そんな中、何か自分にできることを探そうと思い、ヘアドネーションに挑戦しました。ヘアドネーションとは、長く伸ばした髪を切り、病気で髪がなくなってしまい苦しんでいる方のために、かつらを作るという取り組みです。私は新体操で伸ばしていた髪を切り、病気で苦しんでいる方へ寄付しました。私が新体操のために伸ばしてきた髪が、誰かを笑顔にできることを嬉しく思いました。

そして、中学生の主張も私の挑戦の一つです。去年もこの場をお借りして、主張をさせていただきました。この経験から自ら主張することの大切さを知り、今年も挑戦しようと思いました。

私は今まで、さまざまなことに挑戦し、「夢を持つことの大切さ」を知りました。私はなぜ夢を持つことが大切なのか、その理由は二つあると思います。一つ目は自分の目指すべき方向を明らかにできるからです。新体操や部活動では、夢を持っていたからこそ、真っ直ぐ一直線に努力することが出来ました。二つ目の理由は、今自分に何が 필요한のかを自覚できるからです。夢を持って練習することで、目標に向けた的確な努力をすることが出来ました。今、私には多くの目標があります。一つは保育士になること、一つはオリエンタルランドのダンサーになること、一つは高校でチアリーディングをすることです。この三つの目標はバラバラのように見えますが、私の中では一つの大きな夢です。私の今の夢は「人に笑顔を届ける仕事がしたい」というものです。それは変わりません。この夢に行き着いたのも、今までの挑戦や経験があったからこそです。私はこの挑戦や体験を活かし、「人に笑顔を届ける仕事がしたい」という夢に一直線で突き進んでいきたいと思っています。

私は、中学3年生に進級して生活する中で、自分たちの学校生活が制限されていることを改めて感じはじめました。私には、3つ上の兄がいます。兄が中学生の時の写真や動画を見ると、今の私たちの学校生活とは全く異なり、驚きました。

私はもっと学校生活の中で、クラスメイトの仲間達と交流を深め、この3年間でかけがえのない絆を築きあげると思っていました。しかし、今の私たちの現状ではマスクをしていることでコミュニケーションがとりづらく、相手の表情をよく見られません。そして、新型コロナウイルスの感染拡大により、三密を避け、私たちの行動に制限がかかってしまいました。その中で、一番新型コロナウイルスの辛さを感じたのは、部活動です。私の学年では、4月からの登校がのび、初登校が6月と遅いスタートを切りました。3年の先輩方と交流が少なく、教わることも少なかったので、自分たちの代に変わった時は不安でいっぱいでした。3年最後の夏、学校総合体育大会では、地区2位という結果を残すことができました。惜しくも、県大会に行くことはできませんでしたが、挑戦したということは、私にとっても良い経験になりました。しかし、チームメイトが良いプレーをした時、応援する時などに制限されてしまいました。本当はもっと、大きな声で応援したい！良いプレーを褒めたい！という気持ちを抑えて、応援していました。嬉しい時に全力で喜ぶことができない。これがこの大会の唯一の心残りでした。

また、新型コロナウイルスの影響により、様々な行事が中止となり、学校全体での交流も少なくなっていました。1、2年生の時の行事は、ほぼ全て学年のみで行ったり、中止になったりしました。私としては、生徒会本部役員として、もっと行事を盛り上げたかったと思っています。しかし、このことを通して、行事など特別な時だけでなく、普段の学校生活でも、生徒会本部役員としてリーダーの人たちを支えなければいけないと気付くことができました。私は、今年度こそ、学校全体で行事を行い、生徒会本部役員として全力で楽しめるよう、感染対策を徹底していきたくと思いました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、残念なことも多かったです。学んだことも多かった2年間でした。私が学んだことは、自分を抑制することは大切だということです。学校が休校になったり、部活動が中止になったりと家にいる時間が多くなり、勉強を妨げるものが多く勉強をあまりしていませんでした。しかし、この事を通し、自分を抑制し、自分の成長につなげていかなければならないと何事に対しても思うようになりました。また、一つ一つに対し、一生懸命励むことは大切ということも学びました。いつ、何が起こるか分からない世の中で、一つ一つ後悔がないように行動していきたくと思います。何か一つのことを懸命に取り組めば、素晴らしい成果がついてくると思います。

新型コロナウイルスは、私たちに悪い影響を及ぼしただけではなく、私たちの今までを振り返り、変わることができる機会を与えてくれたと思います。私は、この中学校3年間で学んだことを忘れず、何事にも全力で取り組んでいきたいです。

## 《優良賞》

本当の豊かさとは

東京成徳大学深谷中学校2年1組 <sup>たかおか</sup> 嵩岡 うるい

「貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、かぎりなく多くを必要とし、もっともっととほしがることである」

これは2012年にブラジルのリオデジャネイロで開かれた国連持続可能な開発会議で、南米ウルグアイのホセ・ムヒカ大統領が演説した時の言葉です。私はこの夏、この言葉の意味を痛切に感じる出来事を体験しました。

私は今年の夏休みに、タイでホームステイとボランティアの活動に参加しました。向かった場所はタイ北部のチェンライ。山岳民族が暮らしている地域です。山岳民族とは、半遊牧生活をしながら山岳地帯で農耕生活をしている人々のことです。彼らは国境に関係なく、豊かで安全な土地へ移動しながら自給自足で暮らしています。タイ北部に住む山岳民族にはいくつかの部族がありますが、その部族の中の一つであるラフ族の村で、私はホームステイをしました。住居は竹で作られていて、ガスや電気は通っていません。囲炉裏で火をおこして料理を作り、夜は家の中も真っ暗になるので、暗くなったら就寝します。昼間は山の急な斜面につくられた畑で農作物を育てたり、生産したパイナップルなどの農作物を中国に輸出したりして生活をしています。しかしコロナ禍の影響で、最近中国への輸出ができなくなり、生産しても売れ残っているそうです。パイナップルは以前よりもかなり安い値段で取引され、それでも売れ残ったものは破棄されてしまうという話を伺いました。

ある夜、村の人に「この3年間は、コロナ禍の影響で生活が苦しくて大変だったのではないですか？」と尋ねてみました。すると意外な答えが返ってきたのです。「たしかに収入は前より減ったけれど、困ってはいない。だってここには野菜や果物がとれる畑があるし、鶏や豚もいる。水もあるから生きていける。そして大切な家族もいる。ここで生活できて幸せだよ」と笑顔で言うのです。私はこの言葉を聞いてとても驚きました。ここにはWi-Fi環境はないし、シャワーからお湯は出てきません。雨が降れば土砂崩れがあちこちで起きます。トウモロコシの苗にみんなで撒いた肥料もあつという間に流れてしまいます。しかしここでは鶏の声で目を覚まし、産みたての卵や庭で採れた新鮮な野菜でおいしいごはんが食べられます。村の人達がそれぞれの家を行き来して、のんびりと楽しくおしゃべりする時間があります。言葉が伝わらなくても、今までに体験したことのない温かくて幸せな気分を味わうことができました。

帰国してから変わったことがあります。それは前よりも喜びや幸せを感じるが増えたということです。これまでは料理を手伝うことはほとんどなく、食べたくないものは残していました。しかし最近は、家族で料理をする時間が増え、食べ残すことが減り、作り手に対する感謝の気持ちが自然と持てるようになりました。また家族と過ごす時間が一層大切なものを感じるようになりました。今では何気ない日常がかけがえのないものに思えます。

言うまでもなく日本は物質的に恵まれた国です。欲しいものはすぐに手に入れることができます。古くなったり飽きたりすれば、すぐに買い換えることもできます。それによって得られる幸せは今でも変わりません。ですが私が14年間で感じてきた幸せと、ラフ族の村で感じた幸せはだいぶ違います。本当の豊かさとは何なのでしょう？ラフ族の村で感じたあの幸せは、実は人間が生きる上でとても大切な原点ではないかと思えました。そしてその幸せの上に、物質的な豊かさがあるのではないかと思います。「食べるものがあり、家族や友人がいて、安心して暮らすことができる」それだけで十分幸せと感ずることができたら、世の中はもっと変わっていくように思えます。争いごとや戦争のない平和な世界や、地球環境を守ることに繋がるとは思いませんか。

あなたにとっての幸せは何ですか？本当の豊かさについて考えてみませんか。

私たちの周りには、喫煙者が少なくない。私はタバコの匂いがどうしても苦手だ。タバコの、いかにも健康に悪影響のありそうなあの匂いが苦手である。タバコを好んで吸う人からすると良いかもしれないが、苦手な人からすると大迷惑だ。

私の苦手なタバコの煙には、約5300種類の化学物質が含まれており、その中には約70種類の発がん性物質が含まれているようだ。これらの物質は喉や肺など、タバコの煙に直接触れる場所だけでなく、血液を通じて全身に運ばれ、がんの原因となる。また、タバコを吸うことはがんだけでなく、脳卒中や虚血性心疾患などの循環器疾患、歯周病など多くの病気と関係がある。また、予防できる最大の死亡原因であるとも言われている。つまり、タバコを好んで吸う人は、病気のリスクを背負っているのである。

さらにタバコを吸うことは、周りにいる人にまで害が及んでいる。日本では、受動喫煙と呼ばれる、呼出煙と副流煙が混ざったものによる死亡数が15400件にも達するという。3大有害物質とされているタバコに含まれている有害物質は、主流煙よりも副流煙の方が多いといわれている。

私が小学生の頃、タバコを吸っているお姉さんと話したことがある。タバコについてそのお姉さんは、「あまり良くないことだとは分かっているけど、なかなか止められない」と話していた。幼いながらにタバコの依存性の高さを学んだ気がした。私の家族や親戚ともにタバコを吸わないので、タバコは「匂いのする、ちょっとした煙」程度の認識だった。しかし、お姉さんと話をした出来事をきっかけに、「タバコはあまり良くないものだ」という認識に変化した。そこで、タバコの副流煙について調べてみると、「妊娠中にタバコの煙を吸うことで、流産や早産、先天性の異常や新生児死亡、乳幼児突然死症候群が起こるリスクが高くなる」ということがわかった。お腹の子と、お母さんの命や将来を守るためにも、妊婦さんの前でタバコを吸うことは絶対に止めるべきだと感じた。

このようなリスクの多さから、受動喫煙がいかに危険であるかがよくわかる。それにもかかわらず、現在の日本では税収確保を最優先とし、国民の健康は二の次とされているのだ。海外では、「禁煙法」が広がるほど、タバコは危険なものとされている。日本でも、2020年4月より「改正健康増進法」が全面施行された。受動喫煙を防止する取り組みは「マナー」から「ルール」に変わったのである。しかし、世界中から危険なもの扱いを受けて、他の人に多大なる健康被害を与えている喫煙者は、日本は依然として多いのが現状である。タバコを吸うことが悪いわけではない。周りの人に迷惑をかけないで欲しいのだ。そこで提案がある。タバコの値段を高くしたり、売り場を少なくしたりして、タバコを吸うことを止めさせる手段をとることだ。しかし、これだけでは望まない受動喫煙を完全に防ぐまでには至らないだろう。さらに非喫煙者が苦しまなくてすむ世界を作るためには、喫煙ルームの設置数を増やしたりタバコのポイ捨てを罰則化したりなどの措置をとる必要があるかもしれない。

つまり、私がタバコを吸う人に伝えたいのは、吸うからにはマナーをしっかりと守り、喫煙に伴うリスクと、周りの人に害が及ぶことを考えて欲しい。吸う場所や時間帯、頻度などを考えて生活をして欲しいということだ。そうすることで、喫煙を嫌う非喫煙者は減り、喫煙者も肩身の狭い思いをしなくていいと思う。双方にとって良い関係を築けることが、私の願いである。

自分の夢と向き合って

藤沢中学校 2年3組 こぼやし 小林 まい

私の将来の夢は、医療関係の仕事に就くことです。特に小さい頃からの目標にしているのが「看護師」という職業です。看護師という仕事を目指すようになったのは、私が小学2年生の頃からです。なぜなら、体調が悪く、病院に行くと、暗い気持ちで沈んでいた私を明るく慰め、笑顔にしてくれた看護師さんがいたからです。その看護師さんは、私に優しい言葉で声をかけ、笑顔で対応してくれました。私もそのような看護師になりたいと思ったのです。

小学4年生になると、看護師の仕事を体験できる活動があり、それに参加することになりました。その仕事体験は、様々なことが体験できる反面、とても大変でした。しかし、やっと夢への第一歩を踏み出せたことで、私はとてもうれしく、看護師という仕事への興味関心が更に高まり、もっとその仕事について知りたいと思うようになりました。

小学5年生になると、新型コロナウイルス感染症が流行し始めました。テレビをつければ、そこには医療現場の実態が流れていました。そのニュースに見入っていると、看護師さんが患者さん一人ひとりに寄り添っていました。病院内にはたくさんの患者さんがおり、様々な症状を訴えている中で、一人ひとりに対応していく看護師さんの姿に、とても心を打たれました。看護師になりたいという思いが、より一層強くなっていきました。

私は、看護師という仕事は、努力をしていない人にはなれない仕事だと考えています。自分が実際に関わったり、テレビでその姿を見たりする中で、そのように感じました。また、人一倍の努力が、一人前の看護師を形作ることも考えました。

私は将来、「一人前の看護師」になるために、新しい目標を3つ決めました。

一つ目は、「現状に満足しないこと」です。現状に満足するということは、今の自分からの成長がなくなってしまうということにつながると思います。私にはまだ足りないところがあるはずです。例えば、定期テストに向けた学習をしていて、「これで十分だ」と考えるのではなく、「より良い点数をとるために、まだやれることがあるのではないか」と考えられるようにし、自分を高めることにこだわっていきたいです。何事も満足せずに取り組むことで、自分自身の「最高地点」を更新できると思います。

二つ目は、「自分に与えられた仕事を全うすること」です。私は現在、生徒会本部役員・副会長を務めています。いつもミスをしてしまい、先輩に助けをもらうことが多くありました。そのたびに反省の気持ちが募り、以前は本部役員の仕事が楽しくありませんでした。しかし、与えられた仕事を積極的に行っていくうちに、仕事をする喜びを感じたり、達成感を得られたりしました。今では先輩方に頼らずに、仕事を進めることができている。これから先も、本部役員として楽しく仕事をしていきたいです。

三つ目は、「部活動を全力で頑張ること」です。私は剣道部に所属しています。1年生の時、初めて試合のメンバーとして選ばれたとき、とても嬉しかったことを今でも鮮明に覚えています。その試合は準優勝という結果を、先輩と残すことができました。その後も試合に出る機会があり、次第に剣道にのめりこんでいくようになりました。その中で、私は毎日必ず剣道のことを考えるようにしました。今日の稽古の課題は何か、明日の目標はどうしようかと、毎日考えました。そして、2年生になり、先輩方が最後の大会を終え、引退をしました。自分の代となり、部をまとめていく立場になると、今まで以上に「負けたくない」、「勝ちたい」、「県大会に出たい」という思いが強くなってきました。ただ、勝ち上がってくるような選手は、私の何倍、何十倍と努力をしているはず。気持ちの部分でも、成長していく必要があると感じています。自分で限界を決めずに、稽古に励み、チャレンジしていきたいです。

私は、これらの自分が設定した目標を必ず達成します。いつか医療現場で一人前の看護師として仕事にやりがいを感じながら、たくさんの人を救います。思いやりと笑顔を絶やさず、充実の日々を送りたいです。



皆さんには、今やりたいことがありますか。そして、気づいていますか。私たちには、目を向けるべき現実が溢れていることを。「現実を目を向ける」とは、目の前で起きていることを当事者として深く考えることです。

世界という広い範囲に目を向ければ、ロシアのウクライナ侵攻、今なお続く民族間紛争や人種差別、地球温暖化に伴う異常気象など。少し範囲を絞って日本に目を向けても、少子高齢化や男女の格差など目を背け考えることを避けているたくさんの現実が私たちに迫っていることに気づくでしょう。更に視野を絞っていくと、埼玉県、深谷市、学校、家庭…。これらの中にも必ず“何とかしたい”と思う現実、課題が見えてきます。

私は自分の進路を真剣に考える中で、一つの課題を見つけました。それは、『学び』についての課題です。私は学ぶことが大好きです。今まで知らなかったことを知ると、とてもワクワクします。私にとっての学校は、そんなワクワクが溢れた宝箱のような場所です。

日本には義務教育が9年間あり、学校という私たちが学ぶ機会は保障されています。視野を広げてみると、世界では義務教育がない国や様々な事情から学校へ通えない子供たちも大勢います。その中で日本は充実しているといえます。そんな日本でも、学ぶ機会は全ての子供に公平でしょうか。障がいがある子や経済的に困窮している家庭の子供たちは…。

例えば、障がいのある子はサポートがないと学ぶことができないため、特別支援学校や特別支援学級に通い学びます。私の弟もその一人です。小学校では、普通学級で何教科か授業を受け、苦手なものは支援学級でという仕組みです。中学校でも同様で、個々で学びのスタイルが異なるようです。障がいのある子は自分の障がいを自覚することは難しいですし、個々の特性も違います。その特性は目に見えないことも多く、理解を得られないことが多いです。そのため、特別支援学級の子と普通学級の子の間には見えない心の壁があります。支援級の友達と話してただけで「偉いね」と言われたり、「支援級は遊んでいいね」という声が聞こえたりします。こうしたことも含めて、障がいのある子の親の葛藤は計り知れないものです。それに対応する先生や学校にも苦勞があると思います。学ぶべきことを学べていない子もいるようです。障がいがあるから学ばなくてもよい、そんなことは決してありません。せつかく与えられている機会が奪われるのは悲しいことです。また、特別支援学級は中学校までで、高校からは支援学校か普通校に進まなければなりません。家族にとっては厳しい選択を迫られることとなります。

家庭の事情で学校に通えない子、家族の世話や家事を担うヤングケアラー…。家庭という行政や学校が関わりにくい難しい環境に対し、適切な支援が行き届いていないと感じます。経済的な理由で進学をあきらめる子もいます。このことを知ると学びの機会は決して公平ではないことがわかるはずです。だからこそ、日本の教育はもっと柔軟にする必要があると考えます。多種多様な考え方や生き方が認められつつある今、学びの機会も同じ変化が必要です。

私が実現したいことは、全ての子に学びの機会を用意することです。お金も周りの目も気にせず純粋に学ぶことを楽しみ、子どもらしく生きられる、「同じ」ではなく公平な社会を創りたいのです。

私は幸せなことに満足に学ぶことができます。義務教育を終えた後の進路を考える中で、このような社会を創るにはどんな職業に就けばよいのか、深く学ぶべきことは何かを探し、自分の夢を実現したいと思うようになりました。生活していて、変えたい、おかしい、このままでよいのかと思ったことを、皆さんも経験したことがあるでしょう。その気持ちを将来の夢にしていく。強い気持ちがあれば、その夢は実現すると私は信じています。

先日、国語の入試問題を解いていた時に、「中学生にスマートフォンは必要かどうか」というテーマの課題作文を行いました。そのときは自分の考えを15行以内でまとめることが上手くできずに、その場しのぎの考えで済ませてしまいました。そのため今回、改めて自分で調べることで、今後スマートフォンとどのように付き合っていくべきか知っておきたいと思いました。

調べた結果、「スマホ依存症」というものの存在を知りました。「スマホ依存症」は視力の低下や肩こり、ストレートネック、猫背、巻き肩などの身体的な影響だけではなく、うつ病や睡眠障害、落ち着かずにスマートフォンがないとイライラするといった不安定な精神などを引き起こすと言われています。厚生労働省研究班の調査によると、日本の約93万人の中高生、つまり全体の約7人に1人の割合で依存症の疑いがあるとされていることがわかりました。さらにこの「スマホ依存症」は学業にまで悪影響を与えています。東北大学と仙台市教育委員会の調査によると、学習時間が「2時間以上」と回答した生徒のうち、スマートフォンの使用時間が「1時間未満」と答えた生徒のテストの平均点は75点、「2～3時間」の生徒が65点、「4時間以上」の生徒は58点となっていました。また学習時間が「30分以上2時間未満」と答えた生徒、「30分未満」と答えた生徒の平均点の下がり方も、2時間以上勉強している子どもと同様となりました。これらのことから、スマートフォンを適切に利用できなければ心身や未来に多大な影響をもたらしてしまうことがわかります。

思い返すと、私もスマートフォンの影響を多く受けてしまったと感ずることがありました。睡眠時間が短くなり、ストレスも溜まりやすくなってしまいました。学力や集中力も、自分の思うような結果や状態にならず、悩むこともありました。これらはスマートフォンだけの影響ではないと思いたいのですが、事実として私の身に起きてしまったことです。私の周りでもこのような症状が出てしまっている人がいて、とても身近かつ大きな社会問題なのだと実感させられました。

では、私達はこれらの問題をどうすれば解決することができるのでしょうか。私は依存症になってしまう人は、自分で自分をコントロールすることが難しくなっていることが原因だと考えています。実際私も、それができなかつたのでスマホ依存になってしまったのではないかと思います。よって、スマホ依存症にならないためには、常日頃から些細なことを規制して我慢に慣れ、耐性をつけていく必要があります。また、それを患ってしまった人は、問題の大きさや重大さを理解し、それについて徹底的に考え自分なりの方法や解決策ややり方を見つけていくことが大切なのではないでしょうか。

では具体的にどのようなことをしていけば問題の解決や、未然に防ぐことができるのでしょうか。まだ依存する手前の人は、スマートフォン以外の何かのめりこむことのできるものを探することで、スマートフォンを物理的に遠ざけることができます。しかし、すでに依存してしまっている人は、検索によって得られた情報の意味をしっかりと理解することが必要なのではないのでしょうか。例えば検索した内容を見て「わかった気になる」ということはせず、実際にやってみるという思いきりが必要だということです。これらを意識するだけでも状況は好転していくのではないのでしょうか。

私は、これからますます進む社会の変化の中で、スマートフォンのみならず自らの見方や考え方もアップデートすることで、それらに飲み込まれないよう、下ばかりではなく前を見て一歩ずつ前進していく必要があると考えます。

「今年の地区祭りも中止。」

僕がこの言葉を聞くのは3回目でした。自分の住んでいる地域の祭りが、コロナや子供の人数の減少の影響で3年連続中止になってしまったのです。また、コロナの影響や人口減少が進んでいる他の地域でも、相次いで、中止になっていることを知りました。小学校の頃の授業で、伝統を守ることの大切さなどのことを学んでいたこともあり、どうやって伝統を引き継ぐことができるのかを考えて、みんなに広めたいと考えるようになりました。

まず、伝統を引き継ぐためには、課題が3つあると僕は考えました。

一つ目は、人と人の考えの行き違いについてです。

「伝統を引き継ぐよりも新しいことを生み出した方が現代的によい。」

「伝統を引き継いでも、子供には得はない。」

このように、伝統を守りたい人と、それに反論する人の行き違いがあると思います。ただ僕は、現代の未来的な考え方も大事だが、古来の考えを自分に取り入れ、自分に生かすことが何より大切だと思います。そして、人と人の行き違いをなくし、協力することも大切だと思います。

二つ目は、「伝統を引き継ぐことで何が得られるのか」という一つ目と似たような考えを持っている人との考え方の違いです。僕は、地域の文化を五感で感じ取り、一つ目の僕の考えと同じように、それまでになかった考えを学ぶことで、自分に生かせることが得られると思います。伝統が持つ力を皆が理解し、多彩な考えを生み出せるとなれば良いと思います。

三つ目は、担い手の不足についてです。

近頃、文化の中心的な存在が高齢化しつつあることを知りました。そして、担い手不足と化し、どんどん文化の衰退が進んでいます。

文化の衰退を止めるためには、若者の担い手が必須となっています。また、それ以前に、若者が伝統に魅力を感じ取らなければならないと思います。

次に伝統を守るためにはどうすれば良いのかと考えました。調べたところ、ヨーロッパの伝統の残し方についてまとめたものがありました。そこで日本とは大きく違う特徴がありました。それは、街が伝統文化財となっているところです。また、ローマでは街に古き歴史を語るものを残し続けていることがわかりました。こうした建物自身が伝統文化財になっているため、西洋の昔を思い出すことができるような街になっています。この伝統の残し方から、伝統を残し続けていることを視覚的に捉えることが可能になります。ヨーロッパは、伝統をどう維持していくかの意識が高く、様々な工夫をしているのです。

「伝統を受け継ぐためには」

ということを一一人一人が考え、国内にさまざまな伝統を残していき、様々な観点から物事を学べる人が一人でも増えることを願っています。